

# ヘキサック消毒液 20% 500mL

開封日  
年 月 日

販売

- 6) 綿球・ガーゼ等は、本剤を吸着するので、これらを希釈液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下にならないように注意すること。  
7) 本剤のエタノール溶液は蒸気の吸入、火気に注意すること。また、電気メスを使用する場合は、乾燥させてから使用すること。

### 5. その他の注意

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

### ※※【薬効薬理】

低濃度では細菌の細胞膜に障害を与え、細胞質成分の不可逆的漏出や酵素阻害を起こし、抗菌作用(殺菌作用)を示す。高濃度では細胞内のタンパク質や核酸の洗滌を起こすことにより、抗菌作用を示す。広範囲の微生物に作用するが、特にグラム陽性菌には低濃度でも有効である。グラム陰性菌にも比較的低濃度で殺菌作用を示すが、グラム陽性菌に比べて抗菌力に幅がある。グラム陰性菌のうちAlcaligenes、Pseudomonas、Achromobacter、Flavobacterium属などにはまれに抵抗菌株もある。芽胞形成菌の芽胞には無効である。結核菌に対し水溶液では迅速な殺菌作用がある。アルコール溶液では迅速な殺菌作用がある。真菌類の多くに対し抗菌力を示すが細菌類より弱い。ウイルスに対する効力は確定していない。

20%

# 外用殺菌消毒剤 ヘキサック消毒液 20%

Hexizack Antiseptic Solution 20%  
日本薬局方 クロルヘキシジングルコン酸塩液

500mL

日本標準商品分類番号  
872619

※※2017年10月改訂(第5版)  
※※2016年 5月改訂(第4版)

承認番号 21900AMX01466000  
薬価収載 2007年12月  
販売開始 2007年12月  
再評価結果 1982年 6月

# ヘキサック消毒液 20% 500mL

### 【禁忌(次の患者及び部位には使用しないこと)】

1. クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の即応歴のある患者
2. 脳、脊髄、耳(内耳、中耳、外耳)  
(聴神経及び中枢神経に対して直接使用した場合は、難聴、神経障害を来すことがある。)
3. 腔、膀胱、口腔等の粘膜面  
(クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック、アナフィラキシーの症状の発現が報告されている。)

### 【組織・性状】

1. 組成  
本剤はクロルヘキシジングルコン酸塩  
( $C_{22}H_{50}Cl_2Na_{10} \cdot 2CaH_{12}O_7$ ) 19.0~21.0%を含む。

### 2. 製剤の性状

本剤は無色~微黄色の澄明の液で、においはなく、味は苦い。本剤は水又は酢酸(100)と混和する。本剤1mLはエタノール(99.5)5mL以下又はアセトン3mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。本剤は光によって徐々に着色する。比重d<sub>20</sub>: 1.06~1.07

### 【効能・効果】【用法・用量】

本剤はクロルヘキシジングルコン酸塩として次の濃度の水溶液又はエタノール溶液として使用する。

20%

# ヘキサック消毒液20% 500mL

必ず希釈して  
ご使用ください

- (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある患者
2. 重要な基本的注意  
※※(1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。  
(2) 本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。  
(3) 創傷部位又は結膜面に使用する希釈水溶液は、調整後必ず滅菌処理すること。  
(4) 結膜裏等特に敏感な組織に使用しなければならない場合には、濃度に注意し、使用後滅菌水で水洗すること。  
(5) 原液や高濃度液が眼に入らないように注意すること。眼に入った場合は直ちによく水洗すること。
3. 副作用  
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。  
※※(1) 重大な副作用  
ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(頻度不明): ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。  
(2) その他の副作用  
過敏症(注) 発疹、蕁麻疹等(0.1%未満)  
注)このような症状があらわれた場合には、

20%

必ず希釈してご使用ください

必ず希釈してご使用ください

必ず希釈してご使用ください

必ず希釈してご使用ください

### 【取扱上の注意】

1. 本剤の希釈に常水を用いる場合、その中に含まれる硫酸イオン等の濃度により、白色の沈殿を生じることがあるので、希釈水溶液を調製する場合は、精製水を使用することが望ましい。
2. 本剤の希釈水溶液がpH8以上の場合には、沈殿を生じる。
3. 本剤を取扱う容器類は常に、清浄なものを使用し、希釈水溶液は、調製後直ちに使用すること。(水や容器は、微生物汚染を受けやすく、稀に消毒液に抵抗性を示すものが含まれることがある。)
4. 手洗い等に使用する本剤の希釈液は、少なくとも毎日新しい溶液と取り換えること。
5. 本剤の希釈水溶液は安定であるが、高温に長時間曝すことは避けること。
6. 本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸塩で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過酸化ナトリウム等の酵素系漂白剤が適当である。

### 【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部  
東京都中野区中央5-1-10

キャップ:PP  
ボトル:PE  
ラベル:PS

202008

調剤



腔、膀胱、口腔等は禁忌

貯法: 遮光、室温保存  
使用期限: ラベルに記載

注意  
本剤は必ず希釈し、  
濃度に注意して  
使用してください

製造  
番号  
使用  
期限



製造販売元  
吉田製薬株式会社  
埼玉県狭山市南入曽951

効能・効果	用法・用量
手指・皮膚の消毒	0.1~0.5%水溶液 (本剤の200~40倍希釈)
皮膚の創傷部位の消毒	0.05%水溶液 (本剤の400倍希釈)
手術部位(手術野)の皮膚の消毒及び医療機器の消毒	0.1~0.5%水溶液 (本剤の200倍~40倍希釈) 又は0.5%エタノール溶液 (本剤の40倍希釈)
結膜囊の洗浄・消毒	0.05%以下の水溶液 (本剤の400倍以上希釈)
産婦人科:泌尿器科における 外陰・外性器の皮膚消毒	0.02%水溶液 (本剤の1000倍希釈)
手術室・病室・家具・器具・ 物品などの消毒	0.05%水溶液 (本剤の400倍希釈)

### 【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)  
(1) 薬物過敏症の既往歴のある患者

直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

### 4. 適用上の注意

- (1) 投与経路: 外用にのみ使用する。
- (2) 使用時  
1) 注射器、カテーテル等の神経や粘膜面に接触する可能性のある器具を本剤で消毒した場合は、滅菌精製水でよく洗い流した後使用する。
- 2) 本剤の付着したカテーテルを透析に用いると、透析液の成分により難溶性の塩を生成することがあるので、本剤で消毒したカテーテルは、滅菌精製水でよく洗い流した後使用する。
- 3) 血清・膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は十分に洗い落としてから使用すること。
- 4) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落とししてから使用すること。
- 5) 溶液の状態で長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。